

交通ルールの浸透と

安全な交通行動への反映

～自転車・小型電動モビリティとの共存を目指して～

開催概要

日時：2025年11月26日（水）
13:30～17:00（会場13:00～）
場所：トーキネットホール仙台
（仙台市民会館）
形式：対面開催（約100名予定）
参加費：無料

申込方法/申込期限

下記URLよりお申し込みください

申込期限：

2025年11/14(金)



URL: https://www.iatss.or.jp/event/sympo/2522_summit.html

⌚ サミットプログラム

セッション1 全体講義 13:30～14:15

- ・開催概要 東北工業大学総合教育センター 教授 小川和久氏
- ・小型電動モビリティの現状と課題 名古屋工業大学 教授 鈴木弘司氏
- ・自転車の安全な利活用推進について

仙台市市民局生活安全安心部 自転車交通安全課 課長 佐々木朝一郎氏

セッション2 参加型テーマ別討議 14:30～16:00

・分科会1 自転車運転の安全性・走行性に適合した空間整備とは

コーディネータ：立松秀樹氏（株式会社オリエンタルコンサルタンツ中部支社）

話題提供者：鈴木美緒氏（東海大学建築都市学部准教授）

長尾一輝氏（株式会社オリエンタルコンサルタンツ東北支社）

コメントーナ：山口哲男氏（宮城県自転車軽自動車商業協同組合）

・分科会2 混合交通を考える～小型電動モビリティとの共存～

コーディネータ：井料美帆氏（名古屋大学大学院環境学研究科准教授）

話題提供者：井料美帆氏（同上）

伊藤大貴氏（株式会社長大 計画事業部）

高木僚平氏（株式会社Luup COO室室長代理）

・分科会3 安全運転の本質とは何か～ながら運転から考える～

コーディネータ：神田直弥氏（東北公益文科大学学長・教授）

話題提供者：神田直弥氏（同上）

沖興一氏（宮城県警察本部交通部交通企画課課長補佐）

安田弘秋氏（宮城県教育庁保健体育安全課学校安全・防災班課長補佐）

※分科会の詳細は裏面をご覧ください

セッション3 全体討議 16:15～17:00

・成果の共有と提言

●お問い合わせは●

(公財)国際交通安全学会 担当:松井 E-mail: IATSS2522_summit@iatss.or.jp
TEL: 03-3273-7884

■主催: (公財)国際交通安全学会(IATSS)2522Aプロジェクト

■後援: 仙台市



開催趣旨

自転車や小型電動モビリティの利用が広がる中、交通ルールが順守され、安全な交通行動が広く展開されていくためには、多くの課題があります。本サミットでは、来年度導入予定の自転車への交通反則通告制度（青切符）を踏まえ、走行空間の整備、混合交通、ながら運転といった課題について議論し、市民の皆さんと共により良い交通社会への提言を行います。

分科会プログラム（テーマ別討議）



自転車運転の安全性・走行性に適合した空間整備とは

分科会1



- 道路環境と通行ルールとの間にギャップがあることから、ルールに従った安全走行が難しいという現状があります。
- 安全性・走行性という観点から、自転車の走行空間の整備のあり方について議論します。具体的には、自転車走行空間のネットワークの組み方、自転車対歩行者事故を防止する空間整備などです。
- 「理想的な空間」と「現実の課題」とを照合させながら、解決の方向性を探っていきます。

混合交通を考える～小型電動モビリティとの共存～

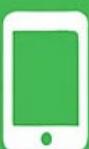
分科会2



- 様々な小型電動モビリティが導入されていますが、走行ルールの理解や危険状況への認識が不十分な現状にあります。
- 小型電動モビリティの種類ごとに、どんな状況で使うことが想定されるか。モビリティの利用は「他人事」なのか、「自分事」になりうるのかなど、混合交通の問題を議論します。
- 小型電動モビリティが社会に広く受け入れられるために何が必要か。交通ルールの理解と他者への配慮のマインドセット構築など、解決の方向性を探っていきます。

安全運転の本質とは何か～ながら運転から考える～

分科会3



- 青切符制度の導入にともない、運転中のスマート使用等は厳罰化の対象となります。なぜ「ながら運転」が危険視されるのか、安全運転の本質から考えます。
- どこまでがセーフといった線引きの議論ではなく、「ながら運転」が安全走行に及ぼす影響について議論します。
- 子どもや成人への教育は重要ですが、そもそも何を教え、何を学ぶ必要があるのか、教材や教育方法の方向性を探っていきます。